

## 佳作 日本的企業財務のリスクヘッジ機能：東日本大震災を通して



■ 広田真一ゼミ グループ5名  
木村 弥之、石橋 友恵、  
高嶋 悟、佐藤 麗生、  
菱沼 愛美

### 執筆動機

私たちのゼミでは、毎年慶應や早稲田の他ゼミの方々と論文発表会を行っています。3年の前期にコーポレート・ファイナンスの勉強を通して金融に触れ、後期は学んだ事を活かして、論文発表会に向けて論文執筆を行うのです。私たちのチームは、「何か新しい価値を生み出し

たい」という情熱を持ち、それを実現するために努力を続けました。その結果、広田先生からの推薦を受ける事ができ、懸賞論文を執筆することになりました。

### 論文の内容

日本的企業財務の特徴である「メインバンク制」と「豊富な現金保有」は、経営において非効率であるとの批判が多くされていますが、一方では財務リスクをヘッジする役割を有しているという主張もあります。私たちは財務リスクのヘッジ機能に注目し、東日本大震災という多くの企業が同時に財務リスクに直面した事象を通して実証研究しました。その結果、日本的企業財務に財務リスクをヘッジする機能があることを、定量的に示すことができました。

### 執筆に当たってのエピソード

私たちの論文は、研究当初思い描いていたような、「筋書き通り」のものではあ

りません。仮説→検証を何度も繰り返す中で生まれたものでした。興味深い結果を得ることができず、途中で「テーマ決めからやり直そう」と考えたことも何度がありました。しかし、うまくいかないことが続いても、仲間5人で励まし合いながら少しずつ前に進むことができました。その積み重ねが、今回の受賞につながったのではないかと思います。

### 後輩の皆さんへのメッセージ

論文を執筆するということは、確かに大変ですし、時間も体力も十分にある学生時代なのだから、わざわざ学業に力を注がなくても…という方もいるのかもしれませんが、多くの時間を割いて苦労した分、大きな達成感と共に自信も得られるため、挑戦する意義はたいへん大きいものがあります。後輩の皆さんにも是非、この早稲田商学懸賞論文に挑戦し、「大学時代は学業も頑張った」と胸を張って言えるようになってほしいと思います。

## 佳作 カテゴリー不確実性に関する一考察：カテゴリーの認識方法の違いが購買後満足に与える影響



■ 守口剛ゼミ 横井 雄史

### 執筆動機

「ゼミ活動の集大成を飾りたい」というのが、一番の執筆動機です。私は大学生活の後半の2年間は、ほとんど全てをゼミ活動に費やしていました。しかしゼミ活動ではこれといった結果を残すことができずに、もう少しで卒業というところまでできてしまいました。そんな時に守口先生から懸賞論文執筆のチャンスを頂きました。

私はこの最後のチャンスで「懸賞論文入賞」という結果を残し、ゼミ活動の集大成を飾りたいと考え、執筆に取り組みすることにしました。

### 論文の内容

スマートフォンに対する消費者のカテゴリー認識について研究しました。スマートフォンは発売当初「ケータイの延長」「PCの簡易版」「ケータイとPCの間」等、様々なカテゴリー認識がなされていました。このようなカテゴリー認識の違いが、商品使用後の消費者の評価にどのような影響をもたらすかを明らかにし、そこから得られた示唆を基に実務的な提案を行いました。

### 執筆にあたってのエピソード

研究を進めていくうえでアンケート調査

には非常に苦労しました。今回の研究ではサンプルが300以上必要だったうえに、調査対象がスマートフォンユーザーに限られていたため、なかなか目標数に達しませんでした。それでも守口先生や友人の協力もあり、提出1週間前になんとか300枚のアンケートを集めることができました。このアンケートが無ければ今回の研究は成り立たなかったため、ご協力頂いた方には本当に頭が上がりません。

### 後輩の皆さんへのメッセージ

懸賞論文に取り組むことでおそらく、遊ぶ時間等犠牲にしなければならないことは沢山あると思います。しかしその分執筆し終えた時の達成感、入賞し周囲から祝福されることの喜びは非常に大きいと思います。是非挑戦してみてください。